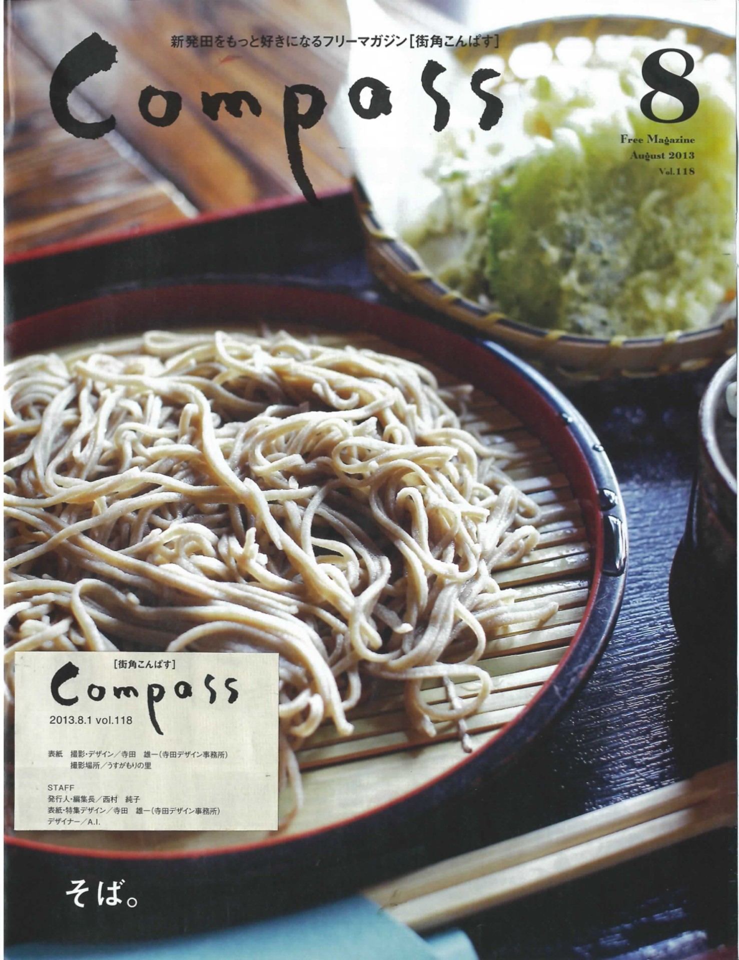
新発田をもっと好きになるフリーマガジン[街角こんぱす]

Compass 8

Free Magazine
August 2013
Vol.118



[街角こんぱす]
Compass
2013.8.1 vol.118

表紙　撮影・デザイン／寺田　雄一（寺田デザイン事務所）
　　　撮影場所／うすがもりの里

STAFF
発行人・編集長／西村　純子
表紙・特集デザイン／寺田　雄一（寺田デザイン事務所）
デザイナー／A.I.

そば。

CONTENTS

4 特集
そば。

13 Spiral Life ～終わりのないシバタへの旅～
第24回　光景を共有する瞬間

15 今月のとびっきり
義をもって結べし、いちじくもち

16 れこめん道

17 寺日和 ～長徳寺の記憶～
第24回　安兵衛のビールが登場!?

20 Compass Special Interview 写真家　平間至

22 塩津潟と都岐沙羅柵（つきさらのき）のロマン

23 なべちゃんの健康通信

24 nikotan's voice

27 しば犬しば猫

29 街角いいたいほ～だい

29 クーポンコーナー

30 クイズ&プレゼント

新発田まつ
白天狗
DE
RT!

その昔、
新発田の総鎮守、

『白天狗みこし』のルーツは、群馬県沼田市の「沼田大天狗」にある。沼田市の弥勒寺には巨大な天狗面が奉納されており、毎年8月に行われる沼田まつりでは、女性だけで2基の赤い大天狗をかつぐ「大天狗みこし」が市内を練り歩くのだとか。

25．8．1

塩津潟（しおつがた）と都岐沙羅柵（つきさらのき）のロマン

伊藤　國夫

〈第３回〉塩津潟が小学校社会科副読本に登場

6月5日に胎内市で実施した講演会には、多くの皆さんに参加していただきました。講演の中で、「塩津潟」が社会科副読本や教育用資料に登場したことも解説しましたが、これは画期的な出来事です。私は塩津潟が約280年ぶりに、よみがえってきたと考えています。

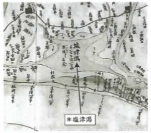
中条町教育委員会の『ふるさと中条』は平成10年に、胎内市教育委員会の『わたしたちの郷土・胎内市』は平成18年に、新発田市教育委員会の『わたしたちの新発田』は平成23年に、「塩津潟」の名称を掲載しています。各市の教育委員会が副読本で紹介したことは、郷土の歴史を直視することになります。さらに、県が発信した『新潟県立歴史博物館・常設展示図録』は、『正保二年越後絵図』を用いて平成12年に「塩津潟（紫雲寺潟）」と記述しています。（『年報・新発田学』敬和学園大学・平成22年3月～24年3月号参照）。

塩津潟を地域の人々は、「しょンづ潟」と訛って呼んでいました。この塩津潟と紫雲寺潟は、同音同義語です。紫雲寺潟を吉田東吾著『大日本地名辞書』（明治40年完成）で調べると「塩津潟の転」とあり、塩津潟と同じ潟であることが分かります。

『中条町史』、『新発田市史』、『豊浦町史』、『加治川村誌』は、『越後絵図』を用い「塩津潟」と明確に記述しています。これらの市町村史は、江戸幕府の命令でできた『越後絵図』や『越後国蒲原郡岩船郡絵図』の塩津潟が基準になっているようです。

新潟県教育委員会は、この『越後絵図』を平成8年に新潟県文化財に指定し、『教育月報』に掲載し、県民の理解を深めています。6月の講演では、この幕命による二篇の絵図と国立公文書館や明治大学等から蒐集した「塩津潟」と記述された絵図を、五種類展示しました。なお、『寛治絵図』（1089年）の紫雲寺潟は、江戸時代後期に書かれた偽りの絵図だと言われています。

こうした経緯を経て、小学校『社会科副読本』は各市町村史と「塩津潟」の記述が同じになってきました。



『日本輿地図』（国立公文書館所蔵・1756年）
『胎内川の恵み』より　平成14年発行

伊藤國夫
・塩津潟教育研究所 所長
・敬和学園大学「新発田学研究センター」一般研究員
・日本文化伝導士